

こども「いきいき」生き物調査 2017

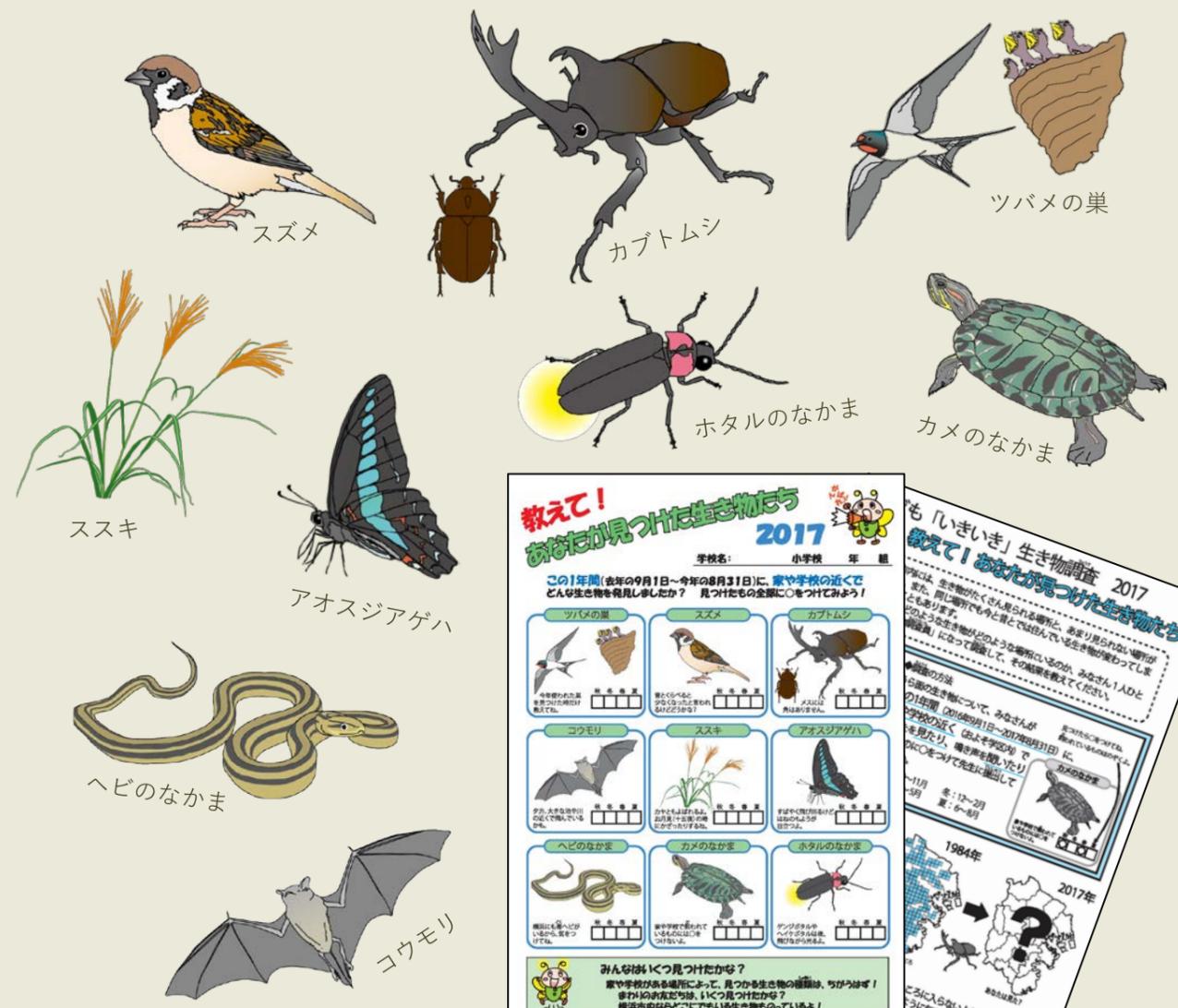
調査結果について 概要版

～小学生1万人超が市内全域生き物調査に参加しました！～

横浜市環境科学研究所では、平成29（2017）年の夏休みに、市内の市立小学校341校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました（本調査は継続5年目です）。

189校、13,095人の児童から回答があり、青い模様が美しい南方系のチョウ、アオスジアゲハが市内東側の臨海都市部で多く確認されていること、市内でも多くの地域でホタルが見られ、全体として約4割の児童が「見かけた」と回答していることなど、生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。

調査対象とした生き物（9種類）



アオスジアゲハ【市全体の確認率 63%】

学校ごとの確認率は30%から94%でした。樹木の上など、高い位置を高速で飛ぶこともありますが、はねの模様が目立つ、大きめのチョウであるため、確認率は比較的高めでした。

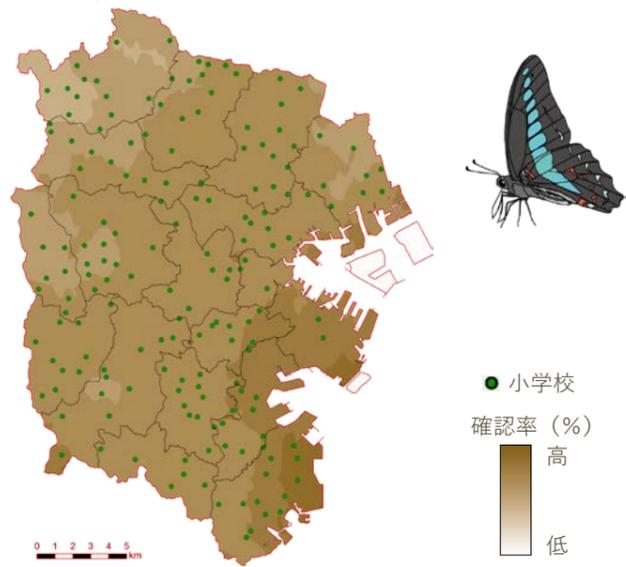
東側の臨海都市部で確認率が高かったのは、アオスジアゲハが、街なかに街路樹として植栽されることも多いクスノキやタブノキに産卵するためと考えられます。市内都市部においては最も多く見られるチョウの1種であり、全国的にも都市部での増加が指摘されています。

また、本来、南方系のチョウであり、国内では現在、東北地方より南に分布し、北海道では見られません。市内では全域に見られますが、温暖化の進行などにより、今後、確認率が変化するかもしれません。

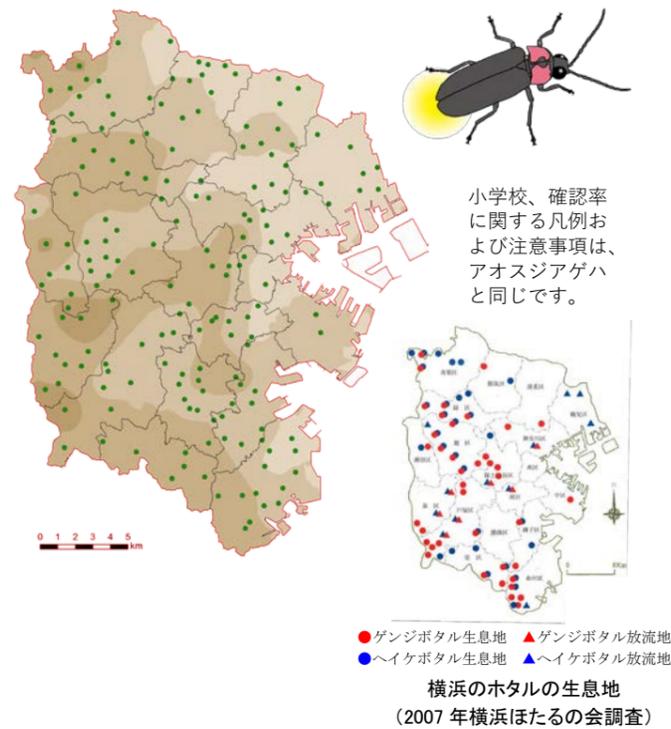
ホタルのなかま【市全体の確認率 37%】

学校ごとの確認率は0%から86%でした。市内では学校のすぐそばでホタルを観察することができるような地域もあり、地域によって大きくばらつきました。

確認率は、市内西側で高く、東側の臨海都市部で低い結果となりました。2007年、横浜ほたるの会調査のホタル生息地情報ともおおむね一致しているようです。成虫の繁殖の障害となる人工的な明かりが少なく、河川流域あるいは、水田のような止水域などの環境が維持されていることを示すと考えられます。ただし、確認率の濃淡はホタルの生息数、発生地規模だけでなく、保護活動の有無といった、地域での注目度にも影響を受けている可能性があります。



注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。



<調査に参加いただいた小学校>

【鶴見区】潮田・下野谷・入船・鶴見・平安・岸谷・下末吉・寺尾・駒岡・獅子ヶ谷 【神奈川区】青木・神奈川・神橋・池上・三ツ沢・斎藤分・神大寺・西寺尾第二・菅田・南神大寺 【西区】戸部・宮谷・浅間台 【中区】北方・大鳥・山元 【南区】石川・大岡・太田・南吉田・南太田・井土ヶ谷・蒔田・南・永田・永田台・六つ川台・六つ川西 【港南区】日野・永野・日下・吉原・下永谷・上大岡・港南台第一・下野庭・相武山・永谷・丸山台・野庭すずかけ 【保土ヶ谷区】星川・保土ヶ谷・帷子・峯・富士見台・常盤台・上菅田・藤塚・権太坂 【旭区】二俣川・都岡・希望ヶ丘・鶴ヶ峯・東希望ヶ丘・上川井・さちが丘・笹野台・中沢・南本宿・中尾・善部・今宿南 【磯子区】屏風浦・梅林・岡村・汐見台・洋光台第一・洋光台第三・洋光台第四・森東・さわの里 【金沢区】六浦・釜利谷・富岡・大道・八景・文庫・西柴・西金沢義務教育学校・並木第一・釜利谷東・並木第四・能見台・小田・並木中央 【港北区】日吉台・新田・大綱・港北・菊名・篠原・下田・大曾根・篠原西・師岡・太尾・新羽・北綱島・新吉田第二 【緑区】山下・長津田・十日市場・三保・長津田第二・東本郷・上山・緑・いぶき野・森の台・霧が丘義務教育学校 【青葉区】田奈・青葉台・もえぎ野・みたけ台・藤が丘・市ヶ尾・嶮山・鴨志田第一・新石川・さつきが丘・荏田西・桂・奈良の丘 【都筑区】中川・勝田・山田・すみれが丘・茅ヶ崎・中川西・都田・川和・荏田・都田西・荏田東第一・荏田南・茅ヶ崎台・北山田・都筑・東山田・牛久保 【戸塚区】東戸塚・境木・矢部・南戸塚・平戸・横浜深谷大・東汲沢・鳥が丘・品濃・秋葉・東俣野 【栄区】西本郷・千秀・桂台・公田・桜井・庄戸・上郷 【泉区】中和田・中田・中和田南・上飯田・東中田・新橋・下和泉・いずみ野・伊勢山・緑園東 【瀬谷区】瀬谷・原・上瀬谷・三ツ境・南瀬谷・二つ橋・阿久和・瀬谷さくら (全189校)

こども「いきいき」生き物調査 2017

1 目的

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、生物多様性保全に資する基礎データ（市内広域における生物情報）を取得することを目的に実施しました。

2 調査方

市立小学校341校の5年生30,504人（2017年5月1日現在）に調査票を配布し、過去1年間（2016年9月1日～2017年8月31日）に、「家や学校の近く」（＝学区内）で見つかり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。



3 調査対象とした生き物

調査対象としたのは、次の9種類の生き物です。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を特徴づけるもの、減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

- ・ツバメの巣
- ・スズメ
- ・カブトムシ
- ・コウモリ
- ・ススキ
- ・アオスジアゲハ
- ・ヘビのなかま
- ・カメのなかま
- ・ホタルのなかま

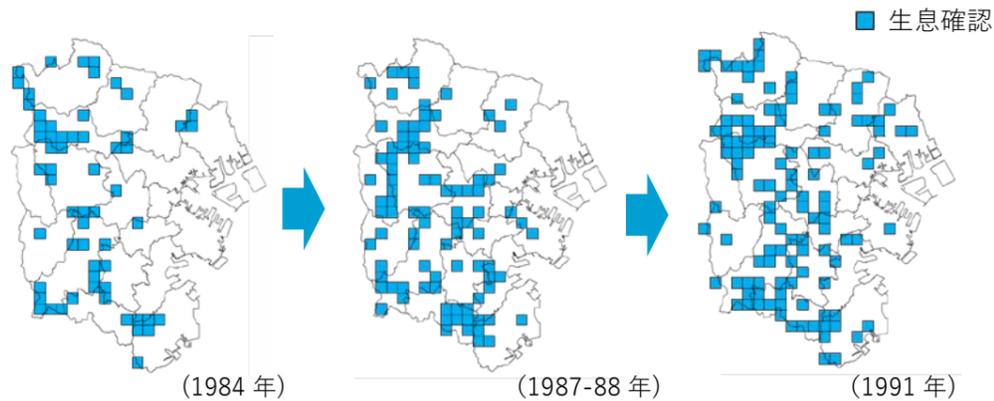
4 調査結果

学校ごとに、対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、その情報をもとにGISソフトを用いて市内全域における確認率の高低を色の濃淡で示しました（3ページ及び4ページ）※1。

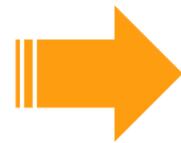
いくつかの生き物については、1980～90年代に3回、小中学生らを対象としたアンケートによる分布調査が行われています。対象とする生き物が確認できたか否かを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました（下図）。

※1 作図にあたっては、1校あたりの回答数が10人以上の172校のデータを使用しました。

（過年度の調査結果：ホタルのなかま）



今年の結果はこちら！



2017年の調査結果（9種類）

※数字（％）は市全体の確認率を示しています。



注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。